

CONTENTS

1. TOPICS 平成28年度男女共同参画トップセミナーを開催
2. REPORTS 6～7月の活動報告
3. INTERVIEW 木下隆利 理事・副学長
孫晶 助教 (社会工学専攻 経営システム分野)
4. 本学における研究者支援施策 女性が拓く工学の未来賞
5. WLB 相談室
加藤正史准教授 (電気・電子工学専攻 電気電子分野)
6. 名工OG会開催のお知らせ

TOPICS

平成28年度男女共同参画トップセミナーを開催

5月18日(水)に「平成28年度男女共同参画トップセミナー<女性研究者支援と大学の活性化>」を開催し、学長、理事をはじめとして各部局の代表からなる人事企画院委員等、約20名が参加しました。

鶴岡裕之学長の開会挨拶の後、文部科学省大臣官房人事課長の藤江陽子氏に「女性の活躍と大学の活性化」と題して講演いただき、女性活躍と女性研究者の現状を高等教育の観点から紹介いただきました。その後、女性の活躍推進にかかわる動向として、女性活躍推進法の施行、第4次男女共同参画基本計画と研究者関連政策(第5期科学技術基本計画など)、高等教育機関の男女共同参画推進に向けた文部科学省関係の支援策についての説明が



ありました。

続いて、JST プログラム主管の山村康子氏に「女性研究者支援事業の実績と今後の動向」について講演いただきました。日本の女性研究者の現状や女性研究者支援事業の実績を説明後、いくつかの取組事例の紹介がありました。最後に、目標達成に向けて学長を中心に一丸となって取り組んでほしいと名古屋工業大学への期待が述べられました。

講演終了後は、単科大学の取組の好事例の紹介、産学官連携事業では女性のプロジェクトリーダーが少ない要因等、活発な意見交換が行われました。



REPORTS

6月～7月の活動報告

06

June



1日 出産・育児支援制度に関する説明会を開催
8・22日 介護と仕事の両立に関する説明会を開催

本センター人事課から本学の制度に関して、また、介護に関しては名古屋市社会福祉協議会より事務局次長やいきいき支援センター長を講師に招き、公的制度やサービスに関して説明や質疑応答を行いました。

10日 第三回女性研究者・技術者の会
ランチミーティングを開催

11号館3階のi-cafeにて、3回目のランチミーティングを行いました。今回は、会員の金先生、坂田さんにそれぞれの研究を紹介いただきました。その後、会食を楽しみながら鶴岡裕之学長と内匠逸理事と懇談しました。

07

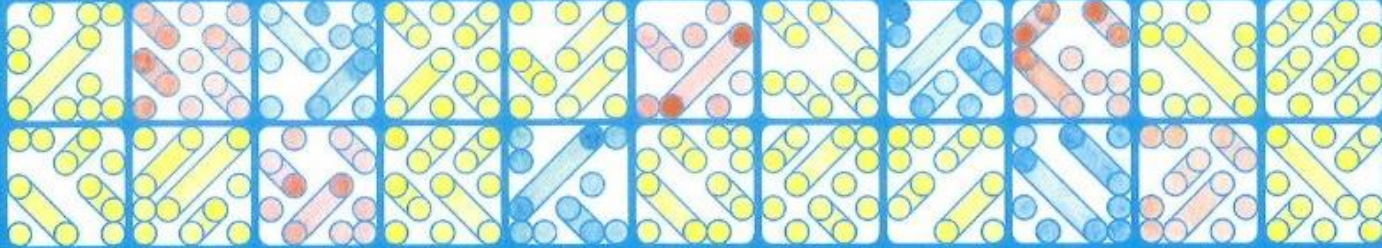
July



29日 科学英語論文 プレゼンテーション
セミナーを開催

理化学研究所小野義正先生による「英語口頭発表の基礎と準備」「口頭発表の実践ポイント1」「英語口頭発表の実践ポイント2」の3つの講義が行われました。

教職員10名と学生44名が参加しました。



INTERVIEW

木下 隆利 理事・副学長

名工大の男女共同参画に対するお考えをお聞かせください。

教員としての活動においては、男女の別は特に意識せず、個性の差として捉えているように思います。従って、例えば研究室は異なる個性（色）の学生の集合体なので、構成メンバーが入れ替わると、研究室全体の色は毎年変化することになります。組織においても、多様な考えや視点の混在が重要と考えています。研究室を一色に染めようとした時期もありましたが、いつの間にか個々の色を尊重できるようになりました。卒業生が壁にぶつかると、結局、自らのやり方で乗り越えている事実を知らされたからです。この時、在学時の研究室での教員の一言がちょっと役に立ったと言われると最高に嬉しくなるのです。こうした経験から、



大学は、学生の個性や能力を引き出し伸ばす場でもあると思うようになりました。名工大生は皆、高いポテンシャルを持っているので、きっかけさえ掴めば更に大きく成長します。成長した結果や身に付けた知識・技術等々は自分だけのものではなく社会の財産として還元して下さることを期待しています。

能力・個性の発見と学び→世の中への役に立つ→世の中からの信頼、の図式に男女の差は無いと思っています。

男女共同参画推進センターへの期待はありますか。

本来あるべき姿として、性別にかかわらず研究活動が行えることだと思います。支援施策も、女性だけでなく男性も必要であれば利用できるものであるべきです。しかし、出産や育児などのライフイベント期の女性にはやはり特別なサポートは必要でしょう。そうした時に、全員に同じ支援をするのではなく、個々のニーズに沿って支援できると良いと思っています。人によっては、育児と研究の両立の際に、育児をサポートしてほしいと思う人もいれば研究をサポートしてほしいと思う人もいるでしょう。これは簡単ではありませんが、ぜひ実現して

ほしいですね。

最後に名工大の学生に一言お願いします。

「忘れよう！」としてください。今の社会は情報が溢れています。すべてを記録し、記憶しようとするのは不可能です。これまで学んだことや、経験したことの中でも「忘れようとしても忘れられないこと」こそが、自分にとって本当に必要なことです。何故なら、それが皆さんの将来の夢の種となっているから。

インタビューを終えて

「名工大にいた時って、自分の性別を意識したことはなかったなあ」これは名工大 OG の方のコメントです。先生から出される課題や評価はもちろん、男性の多い教室でも性別を意識することは全くなかったそうです。そして社会に出た時、初めて社会は男女平等でなかったことを痛感したといいます。採用や昇進、待遇等で男女差別がまだまだ残る日本社会において、性別を全く意識しない環境を作っているのは、木下先生のような「性差は個性の一つでしかない」という考え方のおかげだと思います。（菊池）

本学における研究者支援施策

女性が拓く工学の未来賞

平成 26 年度に創設された女性が拓く工学の未来賞は、優れた研究業績を挙げることが期待される名古屋工業大学の若手女性研究者を表彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図り、これにより本学の男女共同参画の推進に資することを目的としています。

また、この賞を通じて本学所属の優れた女性研究者の業績を広く学内外のみならず認知していただくだけでなく、本学の女子学生のロールモデルとして、彼女たちが将来、研究者としての道路を考えるきっかけにもなると期待しています。

本学で研究活動を実施している若手女性研究者（本学大学院に在学する者を含む）で、女性研究者のロールモデルとして期待される所属長、指導教員等から推薦された方から、「優秀賞」と「奨励賞」各一名を選定します。

優秀賞（副賞 30 万円） 学術上優れた研究成果を挙げ、工学における女性研究者の社会的プレゼンス向上に貢献したと認められる者

奨励賞（副賞 10 万円） 学術上優れた研究成果を挙げることが期待される者

なお、原則として毎年度 10 月に受賞者を表彰するとともに、副賞を授与いたします。

INTERVIEW

孫 晶 助教 (社会工学科 経営システム分野)

研究者を目指した経緯と留学先に日本を選んだ理由を教えてください。

大学のときはダブル・ディグリー制度を利用し、自動化制御と管理工学の2つの学部で学びました。卒業後、保険会社で業務員育成講師と保険代理マネジャーを務めましたが、もっと経営工学について学びたいと思い、経営工学の分野で進んでいる日本への留学を決意しました。電気通信大学の研究生として入学したときには、既に研究者を目指し博士課程に進むことを決心していましたね。修士や博士課程のとき、なかなか研究が進められなくて落ち込んだ時期もありましたが、2007年に学位を取得した直後、日本経営工学会の論文奨励賞を受賞したことがきっかけで、経営工学分野の研究者との交流の機会が増え、視野を広げることができました。

研究だけでなく子育てもあります。どのように両立していますか？

研究と教育の活動において、男性と女性の区別はありません。より仕事を効率よく行うため、集中できる時間の確保がとても大事だと思います。そのため、私の場合は、子供を寝かせた後に仕事をし

たり、休日に夫や両親に子供を頼んで学校で研究をしています。中国の実家で親が育児をしてくれていた時期もありました。第1子の子育ては親のサポートがとても大きく、第2子の子育ては名工大のサポートがとても大きいです。昨年、男女共同参画推進センターの支援事業から心強いサポート(例えばベビーシッターの割引券や研究支援員など)も得られています。そのような周りの支援のおかげで、名工大に赴任して以来、代表者であるJSPSの科研費に2回採用された他、ACMSA2013 Best Paper Awardも受賞できました。本当に感謝しています。



子育てをされていてよかったと思えることはありますか？

仕事と子育ての両立は大変ですが、子供を育てることは幸せなことだと思います。

以前、恩師の奥様から「子供は親の背中を見て育つ」と教えられました。やはり「おもてなし」の心を持って行動することは、子育てにとっても、大学教育にとってもとても重要だと思います。

最後に名工大の学生に一言お願いします。

努力に勝る才能なし。学生るとき、基礎的な専門知識をしっかりと身に付けて、自分の夢に向けて、失敗を恐れずどんどんチャレンジしてほしいですね。

インタビューを終えて

「論文が書けなかったり、レフリーに厳しいことを言われたりして落ち込むこともあったけれど、何日も泣いている暇がないんですよ」と仰ったことが印象的でした。日本という文化も言葉も違う環境で、子育てしながら研究者として活躍するのは、とても大変なことだと思います。でも、自分のやりたいことは何なのか、そのためにはどうしなければいけないのかが明確であり、きちんと周りにも支援を求めることができる。だからこそ孫先生は子供を育てながらも成果を出し続けているのだと思いました。(菊池)

これまでの受賞者

平成26年度 受賞

小幡 亜希子さん(助教)

大学院未来材料創生工学専攻



略歴

2004年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科修了・博士(学術)取得、2005年名古屋工業大学・プロジェクト助教(2007年~2008年日本学術振興会・特別研究員SPD)、2008年同大学・助教、2009年日本金属学会・奨励賞(材料プロセス部門)、2011年 日本セラミックス協会賞・進歩賞、2013年日本無機リン化学会・奨励賞、専門はバイオマテリアル、無機材料、細胞応答性評価

平成27年度 優秀賞受賞

吉田 奈央子さん(助教)

若手研究イノベーター養成センター(テニュアトラック)



略歴

2005年3月豊橋技術科学大学大学院環境・生命工学専攻博士後期課程修了、2005年4月名古屋大学エコトピア科学研究所機関研究員、2008年4月京都大学農学研究科学術振興会特別研究員、2011年4月豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究所テニュアトラック助教、2013年10月名古屋工業大学若手研究イノベーター養成センターテニュアトラック助教、専門は環境微生物分野

※所属、略歴等は全て受賞当時のものです

平成27年度 奨励賞受賞

前野 万也香さん(博士後期3年)

大学院工学研究科共同

略歴

2011年3月名古屋工業大学工学部第二部物質工学科卒業、2013年3月名古屋工業大学大学院工学研究科未来材料工学専攻博士前期課程修了、2013年4月同大学院工学研究科共同ナノメディン科学専攻博士後期課程入学、2014年9月~2015年3月フランス INSA Rouenへ留学、2015年日本学術振興会特別研究員採用、専門はサリドマイドを主軸とした研究

女性研究者・技術者が、性別に関わりなく個性と能力を発揮できるよう、名工大が積極的な女性研究者支援を始めて2年が経過しました。しかしライフイベントに直面して両立が困難になるのは女性に限ったことではありません。今回は主たる養育者として研究と子育てを両立している加藤准教授にお話を伺いました。



加藤 正史 准教授
(専攻・独修工学専攻 電気電子分野)
名古屋工業大学大学院博士課程修了、博士(工学)。本学助手を経て、2008年より現職。専門分野は半導体工学。2012年の第一子誕生から育児に参画。2014年に第二子が誕生。

子育てしながら研究を行うメリットとデメリットを教えてください。

メリットはないですね(笑)。時間的制約が出てくるというデメリットはかなりあります。研究は終わりのない仕事だし、他の研究者との競争という面もありますから、家族がいないときは1日12時間くらい研究室にいました。でも、子どもができてからは8時間くらいに抑え、家事や育児をやるようになりました。現在は、親の支援を得られるようになったので、以前より家事負担は若干減っています。

では、どのように乗り越えているのですか？

子どもがいる以上、今までのようには働けないことはしかたがない。その事実をまずは受け入れなければならない、と思っています。子育ては大変だけど、未

来があり、代償の払い甲斐があると思っています。

でも乗り越える上で大きなことは、若いころと今では立場が違うということです。助手や助教のとき、自分の研究は自分でやらなければならなかったけれど、今は学生の方々に実験をお願いできる立場になったということが、大きいと思います。実験は時間的拘束が大きいですが、学生の方々の手を借りることで達成できることがたくさんあります。現在研究室に居られる時間は多くはありませんが、研究のことは家に帰ってもずっと考えてはいます。実は、子育てをしている今のほうが成果は増えているのです。以前より効率よく研究できるようになりましたし、今まで自分ひとりでやっていた実験を、学生の方々にお願いできるようになったからだと思います。学生の皆さんも子育てをしながら仕事していることを知っているの、助けようと思ってくれているのかもしれない(笑)。

やはり私は、研究で誰かの役に立ちたい、世の中の役に立ちたいと思っています、それが辛い状況乗り越える最大のモチベーションになっています。子育てに時間を取られたとしても、時間以外のリソースを最大限使って、可能な限り良い

研究をしたいと思っています。

研究者であることは子育てと両立する上で有利でしょうか？

そうですね、大学の研究者だと、裁量労働制なので、時間の融通が利くことはメリットだと思っています。例えば自分で時間を工面すれば、子どもを予防接種や健診に連れて行くこともできます。研究という仕事そのものには、子育て中だからといってメリットはありません。ただし逆に結果をきちんと出していれば、人のバックグラウンドや感情に関係なく公平に評価される仕事だと思います。

最後に名工大でワークライフバランスを推進するために一言メッセージをお願いします。

女性だけが子育てするものという考え方はやめてほしいですね。男性でも子育てをしなければならない人もいますから。そのためには残業ありきの社会を変えていかなければならないと思います。本学においても長時間労働している方がたくさんいると思いますが、ワークライフバランスを実現するためには、職場全体として労働時間を減らさなければなりません。そのためには、働き方に関する意識を少しずつ変えていく必要があるでしょう。

日本には性別役割分担意識が根強く残っており、その意識が女性の就労継続を阻む一方で男性は「男はこうあるべき」という意識に縛られ、周りに支援を求めにくかったり、社会や職場が、「長時間働いて当然」、「家庭よりも仕事優先」と思っていたりすることがあります。性別役割分担意識による弊害を感じていながらも、根付いた価値観はなかなか急には変わらないと思います。しかし働き方や家族の形も多様化している現在において、いつまでも時代にそぐわない意識を持ち続けるのではなく、行動することによって意識を変えていく必要があるのではないのでしょうか。加藤先生がおっしゃっていた通り、残業ありき、という社会を変えていくためにも、まずは今やっている仕事のやり方を見直してみませんか。その仕事はあなたでなければできない仕事でしょうか？無駄な作業は含まれていませんか？



WLB相談員
菊池美由紀

名工OG会開催のお知らせ

「年に一回会いましょう」を合言葉に、ホームカミングデー等の機会を利用し、OGや現役女子学生が交流でき、縦と横の繋がりを持てる場を目指し、名工OG会を設立します。

日時： 11月3日(木・祝) 11:00~12:30
場所： 生協2階 カフェテリア
主催： 名工OG会(仮称)設立準備委員会
後援： 一般社団法人名古屋工業会、名古屋工業大学卒業生連携室、男女共同参画推進センター

申込方法：

9月末までに男女共同参画推進センターまで下記内容をご連絡ください。

①氏名、②フリガナ、③卒業学科 or 修了専攻、④卒業 or 修了年、⑤お子さま同伴の有無(お子さまは参加無料)、⑥託児希望の有無(希望の方は電話番号等の連絡先)

※参加費：500円(軽食をご用意しております)

※託児の詳細は男女共同参画推進センターへお尋ね下さい

発行 名古屋工業大学男女共同参画推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 TEL | 052-735-5121

URL | <http://www.nitech.ac.jp/gender/> E-MAIL | danjokiyodo@adm.nitech.ac.jp